

2021年のキーワード SDGs達成の鍵 循環経済(サーキュラー・エコノミー)

昨今、SDGsの考え方が普及し、事業活動の中に取り入れる企業が増えてきています。そうした中、欧米の企業を中心にSDGsの目標を達成するための具体的な方法論として「循環経済(サーキュラー・エコノミー)」が注目されています。今回は循環経済について紹介いたします。

図1 循環経済ビジョン2020(概要)

循環経済ビジョン2020

<背景>

- 線形経済モデルの限界
- デジタル技術の発展、Society 5.0への転換
- 市場・社会からの環境配慮要請の高まり

<ポイント>

- 環境活動としての3R⇒経済活動としての循環経済への転換
- グローバルな市場に循環型の製品・ビジネスを展開していくことを目的に、経営戦略・事業戦略としての**企業の自主的な取組を促進**(規制的手法は最小限に、**ソフトウェアを活用**)
- 中長期的にレジリエントな循環システムの再構築

出所：経済産業省「循環経済ビジョン2020(概要)」より抜粋

具体的には循環経済のビジネスモデルを紹介いたします。循環性の高いビジネスモデル(図2)では、設計・生産・利用・廃棄の各段階でさまざま

循環経済の ビジネスモデル

後押しする新たなビジネスモデルも台頭しています。

2020年5月に経済産業省は「循環経済ビジョン2020」(図1)を策定し、循環経済への転換に向けて動き出しました。では循環経済とはどういう経済モデルなのでしょうか。

現在の経済成長と繁栄をもたらしてきた経済システムは、大量生産・大量消費・大量廃棄といった流れが一方方向のシステムです。これは線形経済(リニア・エコノミー)と呼ばれます。しかし、この経済システムは全世界での爆発的な人口増加や、気候変動、環境問題に直面し早

循環経済(サーキュラー・エコノミー)とは?

晩立ち行かなくなるといわれています。そこで新たに提唱された経済システムが循環経済(サーキュラー・エコノミー)略称(CE)です。あらゆる経済活動において資源投入量・消費量を抑えつつ、今ある資源を有効活用しながら、サービシ化等を通じ付加価値の最大化を図る循環型の経済社会活動です。

循環経済への転換は、事業活動の持続可能性を高め、中長期的な競争力の確保につながるというわれています。転換の鍵となるのは、デジタル技術の発展と市場・社会からの環境配慮要請の高まりです。

また、近年循環経済への転換を後押しする新たな

今後の動向

循環経済は、近年世界で注目されているSDGsと関わりが深く、SDGsの目標の達成のための方法論といわれています。EU(欧州連合)では2015年に「サーキュラーエコノミーパッケージ」を採択し、日本に先駆けて社会実装を始めています。日本でも「循環経済ビジョン2020」に沿って循環経済への転換へ動き出しました。今後、循環経済に対応していくことが求められ、新しいビジネスモデルの拡大から企業の成長機会にもつながるのではないかと考えています。

(株)京都総合経済研究所

調査部長 植舘孝寿

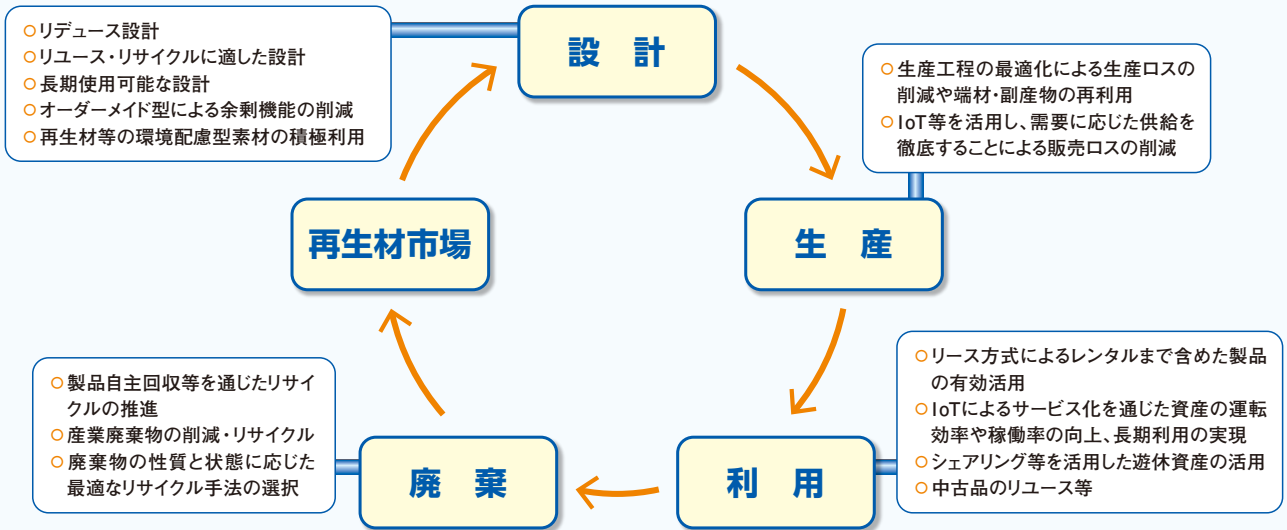
研究員 門田 涼

■参考HP

・経済産業省

・環境省

図 2 循環性の高いビジネスモデルの例



出所：経済産業省「循環経済ビジョン2020（概要）」より当社作成

図 3 循環経済を後押しする動き — 新たなビジネスモデルの台頭

スマホからの簡単なモノの売買を可能に

トヨタの車両サブスクリプションサービス

月額定額制のオンラインファッションレンタルサービス

西友 日立 Hitachi Digital Solution for Retail/AI 需要予測型自動発注サービス

- AIによる需要予測に基づき自動発注を行うシステム
- 業務効率の向上と欠品・食品ロスの削減を目指す

三機工業株式会社

- AIによりごみ質、種別を判別し、自動的にクレーンで廃棄物焼却施設に移動。

出所：経済産業省・環境省「サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環分野の取組について」より抜粋

サーキュラー・エコノミーのキーワード

3R：リデュース（Reduce）・リユース（Reuse）・リサイクル（Recycle）。英語の頭文字の3つの「R」をとった総称。

リデュース：環境負荷や廃棄物の発生を抑制するために、無駄・非効率・必要以上の消費や生産を行わないこと。

Society5.0：狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く人類社会発展の歴史における5番目の新しい社会の在り方。「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に

融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させる、人間中心の社会」と定義される。

IoT：Internet of Things の略。日本語訳は「モノのインターネット」。さまざまなモノ（物）がインターネットに接続され情報交換を行うことで相互に制御する仕組み。

サブスクリプションサービス：商品ごとに購入金額を支払うのではなく、一定期間の利用権として定期的に料金を支払うサービスのこと。